

### ■（24）社会面3

2012.4.6

「新聞は社会を映す鏡」とか「社会の縮図」などといわれます。それは、特に社会面の記事が市井にごくふつうに生きる人間の営みや一人ひとりに起きた事件・事故などの出来事を扱い、社会の一側面を表しているからです。地震や竜巻などの自然現象の記事も、人や社会との関連で扱われます。

ところで、新聞記事になるのは、どんなときでしょうか。「身近な」「初めて」「1番」「最も」「珍しい」「連続」「有名」「多い・大きい」などというキーワードに注目して記事を見ていくとよく分かります。

「犬が人を噛んでも記事にならないけれど、人が犬を噛めば記事になる」といわれるのは、ごく普通の犬が人を噛むのはまああることで（最近の犬はしつけが行き届いているので、そうそうありませんが）、ニュース価値がないのです。でも、例えば、人を噛んだ犬が有名人の飼い犬だったらニュースになるでしょうし、1匹がたくさんの人を噛んだり、狂犬病のような病気を持っていたりしたら大きなニュースになるでしょう。また、噛まれたのが大人の場合よりも、子どもだった場合の方が大きく扱われます。同じ様態の事故でも、仕事上の事故よりふだんの生活のなかで起きた事故のほうが記事になりやすいでしょう。

子どもたちには、社会面の記事を「なぜ、どうして起きたのか」に重きをおいて読ませたいし、事件・事故の背景や、今後どのように展開するかなども考えさせるとよいでしょう。

全国新聞教育研究協議会・顧問 鈴木伸男